

河田山古墳群の歴史

- 1978年 石川考古学会による古墳分布調査で埴田河田山古墳（現河田山1号墳）発見。
1982年 金沢大学考古学会による河田山1号墳の発掘調査。周辺踏査で2～5号墳を発見。
このころ、小松市東部地区産業振興団地造成事業の計画が進む。
1984年 造成事業計画地でさらに6・7号墳を発見。7基中6基は保存の方針へ。
1986年5月 分布調査を再開、さらに15号墳までを確認。
7月 調査の大規模化により、分布調査から面的な発掘調査に切り替え。
石川考古学会の調査により、40基を超える古墳群であることを確認。
1987年4月 12号墳横穴式石室が日本初のアーチ型石室として全国紙で報道。
8月 石室の移築保存、史跡公園・資料館での公開活用を目指すことに。
9月 55基の古墳の調査完了。
1992年 河田山古墳群史跡資料館開館
2022年4月 河田山1号墳・9号墳（附12号墳石室）が小松市指定史跡に
2023年7月 資料館リニューアルオープン（予定）



河田山古墳群史跡資料館

※現在リニューアル中

石川県小松市国府台3-64
Tel.0761-47-4533

休館中のお問い合わせ先
小松市埋蔵文化財センター
Tel.0761-47-5713

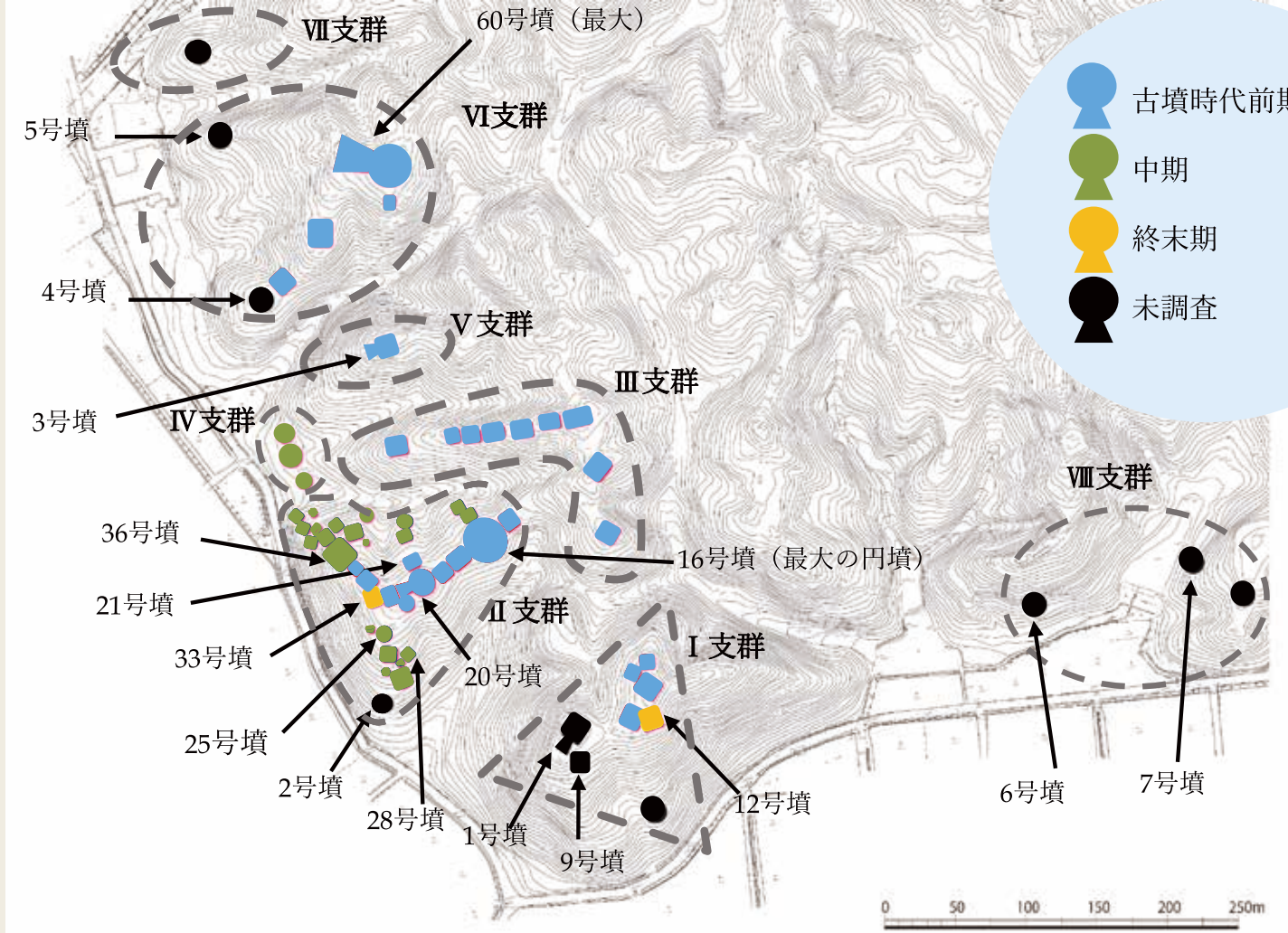


アーチ形石室をもつ大古墳群

河田山

古墳群

2022年度 大学コンソーシアム石川地域課題研究ゼミナール支援事業「「加賀立国1200年」を契機とした地域の歴史PRと学びの場創出」事業
監修：戸根比呂子 編集：今井咲良・半間結・絹川史香
画像提供：向井新（表紙上段）、小松市埋蔵文化財センター（調査写真、出土品写真、古墳群測量図等）
協力：金沢学院大学文学部2022年度考古学演習Ⅲ履修者
（石原梢・馬木竜矢・大森公太・金井明日香・小堀真依・米屋智香・坂下愛加梨・新崎結七・高巢瑠海・得田航生・松島亮太・向井新・山本優希・輪湖幸太）



河田山古墳群とは

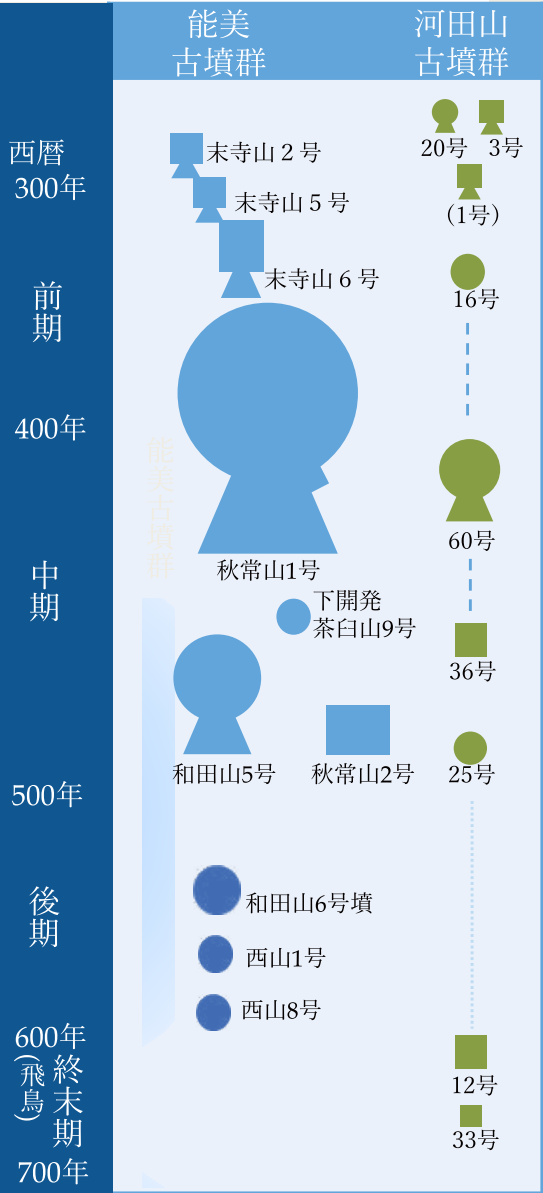
河田山古墳群は石川県小松市国府台に所在する、昔の有力者のお墓です。65基からなる大古墳群で、4世紀～7世紀にかけて築造されました。能美市に広がる能美古墳群にも比較的近く、関わりがあると考えられています。

調査が行われた古墳のうち54基が古墳時代前期から中期のもので、後期に空白期があります。終末期になると石室が特徴的な古墳2基などが確認されています。

分布図を見ると、時代が進むにつれて山の頂からふもとの方へ築造場所が段々に移っていることが分かります。

墳形は前方後円墳が2基、前方後方墳が2基、円墳24基、方墳が30基、その他の古墳が7基です。能美古墳群と同じく、初期に前方後円墳を含むこと、他の形と比べて方墳の数が多くことが特徴です。

	I 支群	II 支群	III 支群	IV 支群	V 支群	VI 支群	VII 支群	VIII 支群	計
前方後円墳		1				1			2
前方後方墳	1				1				2
円墳	1	11	3	5		1	1	3	25
方墳	6	15	6			2			29
その他・不明		7							7
計	8	34	9	5	1	4	1	3	65



河田山古墳の石室

12号墳・33号墳の埋葬施設は、凝灰岩の巨石を積み上げた切石積横穴式石室です。



出土遺物

河田山古墳群からは勾玉・管玉といった装飾品を含め、鉄剣や鉄刀などの武器、鉄斧や方形板鍬鋤先などの農工具が出土しました。また、豎櫛や珠文鏡（しゅもんきょう）といったものも出土しています。

古墳の規模や副葬品の種類は、その古墳に眠る人物の力の大きさを反映しています。河田山古墳群は、60号墳を除く大半が20mに満たない小規模な古墳で、甲冑も未確認ですが、北陸最大級の秋常山1号墳のある能美古墳群の一部を担う、重要な勢力集団のお墓と考えられます。



21号墳出土銅鏡（珠文鏡）



21号墳出土豎櫛



25号墳周溝出土土器
（撮影：田邊朋宏）



河田山古墳群出土農具集合
（撮影：田邊朋宏）



河田山古墳群出土直刀集合
（撮影：田邊朋宏）



28号墳出土玉類
（撮影：田邊朋宏）